

焙煎コンブパウダー入り洗顔用せっけん作りに取り組んで

—商品名「らみーな」の試作商品化—

南かやべ・ラミーナ手作り石けん倶楽部

尾上喜恵子

1 地域の概況

私たちの住む南茅部町は、北海道渡島半島の東部に位置する人口約 7,800 人の町である (図 1)。「カヤベ」とはアイヌ語で「崖」を意味し、約 35km の海岸線には切り立った崖と山林が迫っており、ここを走る国道 278 号線に沿って、びっしりと家々が建っている。

漁業が中心のこの町は昆布養殖発祥の地であり、前浜には養殖施設の浮き玉が縦横にずらりと並んでいる。古くから縄文時代の住居跡や遺跡が町の至る所で発見されており、現在も大船にある C 遺跡では大規模な発掘調査が行われている。また、町内数ヶ所で湧出する温泉は人々の憩いの場として、町民はもとより、近隣の町や遠方から訪れる観光客にも利用されている。

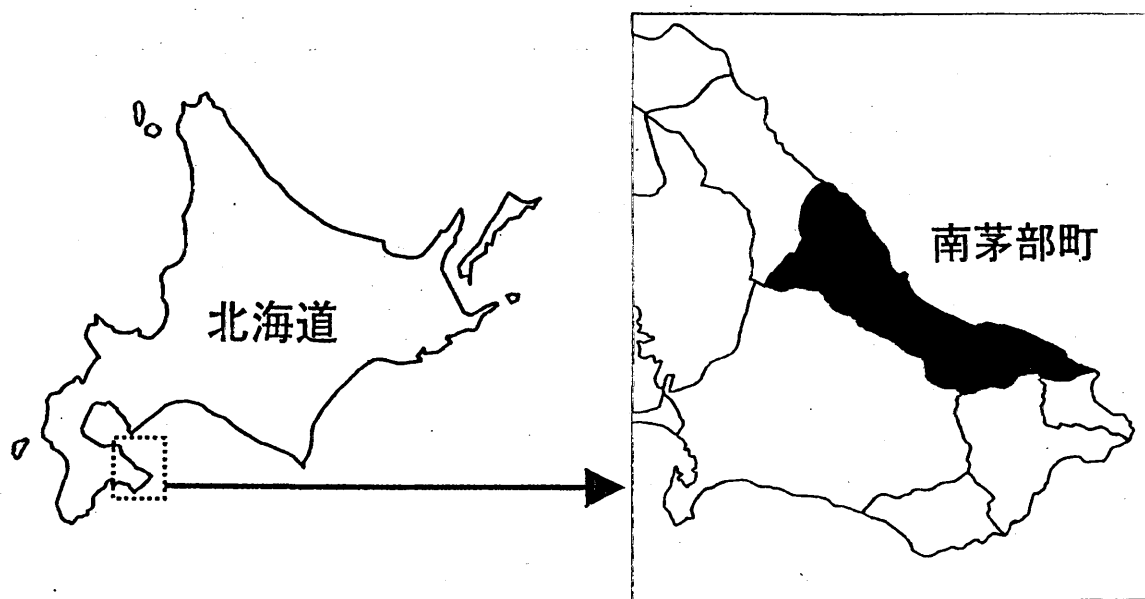


図 1 南茅部町の位置

2 漁業の概要

南茅部町の漁業世帯数は、町内約 2,500 世帯のうち 1,100 世帯余りであり、6 つの漁業協同組合がある。主な漁業は、天然・養殖のコンブ漁業、サケ・イカ・ブリなどの定置網漁業、スケトウダラ・ホッケ・カレイなどの刺網漁業で、そのほかにもイカ釣り、ウニ、タコ漁業などが行われている。平成 12 年の水揚げ数量は約 4 万トン、金額は約 94 億円で、なかでもコンブは水揚げ金額の 49% を占める重要な海産物である (図 2)。

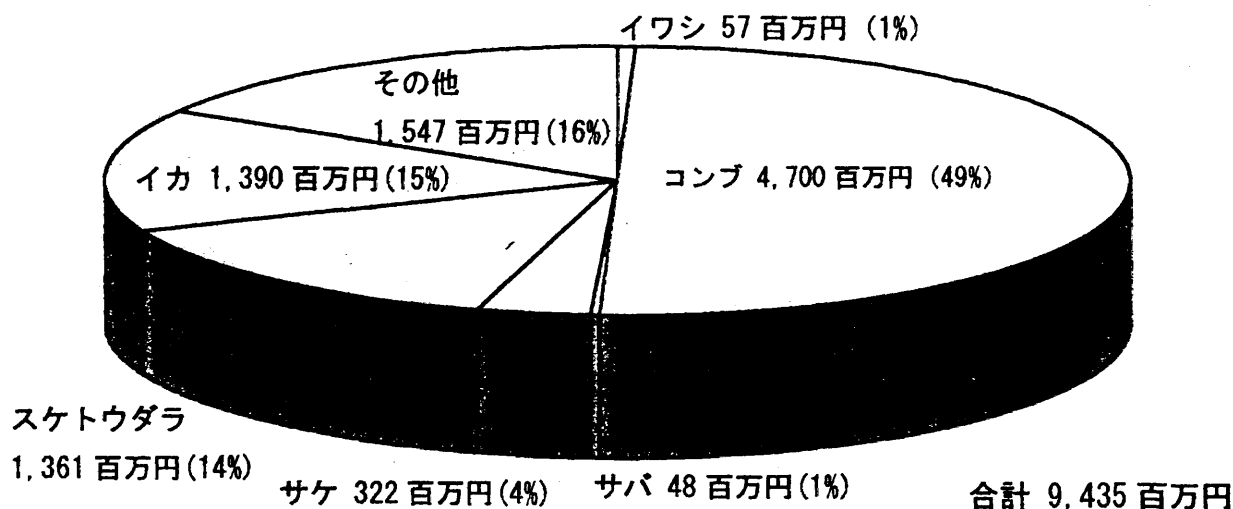


図2 平成12年南茅部町の漁業生産（金額）

3 研究グループの組織及び運営

私たちラミーナ手作り石けん倶楽部は、漁家の主婦5名で組織しており、うち3名がそれぞれ代表と会計と監事を担っている。倶楽部の運営費は、部員の出資、商品の売上収入で賄っている。

4 実践活動課題選定の動機

南茅部町ではかねてから町の特産物を使ってブランド商品を開発し、これを地域の活性化につなげようという取り組みが行われていた。私たちは町主催の加工研究会に参加してイカの粕浸けやサケのいずしなどを作ったり、損益計算法などの経営管理についても学びながら、「まちのブランド品」のヒントを探していた。

私たちは研究会のアドバイザーである経営コンサルタントの先生とお話する機会に恵まれた。私たちにはやはり南茅部の顔ともいえるマコンブを利用して、何か新しいものができるだろうかという考えがあった。先生はこの考えに賛成され、私たちに「女性の美容と健康が注目されている時代なので、昆布の入った石けんを作ってみたらどうでしょうか。」というアドバイスを下さった。こうしたきっかけから、私たちは手探りで「昆布入りせっけん作り」に取り組み始めた。



写真1 コンブパウダー

5 実践活動状況及び効果

① せっけんの試作・アンケート調査の実施と改良

私たちは平成10年11月に、女性の肌や化粧品に詳しい先生に助言をいただきながら、初めて「昆布入りせっけん」を作ってみた。

せっけんに入れる昆布は「コンブパウダー」というもので、町でとれたマコンブを焼き上げた「焙煎昆布」を粉末状にしたものである(写真1)。

せっけんの原料は、肌の敏感な方々にも安心して使っていただけるように、また、海を汚さない環境にやさしいものにするために、一般の石鹼に含まれる指定成分は一切使わず、天然素材のみを使用することにした。せっけん基材はヤシ油を原料とした粒状のパームソープで、これを粉にしたものに、コンブパウダー、ラベンダー抽出水、ホホバオイル、カモマイルを加えて手でよくこねる(写真2,3)。コンブパウダーは海藻エキスで肌に潤いと艶を与え、ラベンダーは様々な皮膚トラブル防止を助けるとともに、芳香剤としても使用している。ホホバオイルは酸化を防ぎベタつきがなく、肌の弱い方に最適であり、カモマイルは乾燥した肌に潤いを与える効果がある(表1)。



写真2 パームソープを粉末にする

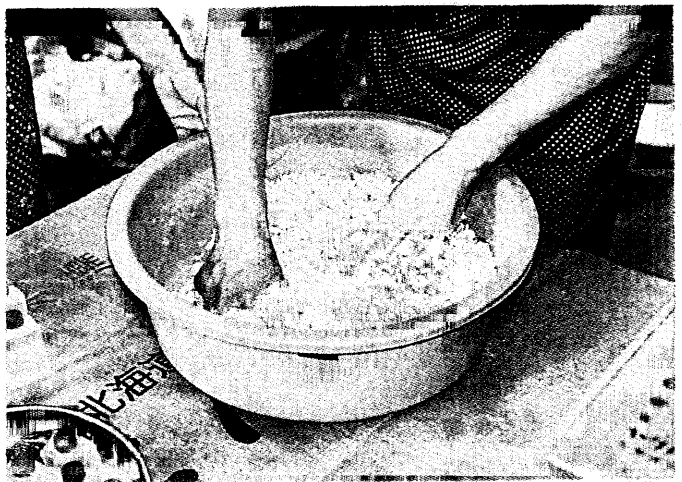


写真3 原料を手でよくこねる

表1 原料とその効果

原料	効果
パームソープ	ヤシ油を原料としたせっけん素材
コンブパウダー	海藻エキスで肌に潤いと艶を与える
ラベンダー	様々な皮膚トラブルの防止を助け、芳香剤としても使用
ホホバオイル	酸化を防ぎベタつきがなく肌の弱い方に最適
カモマイル	乾燥した肌に潤いを与える

せっけんの型は、みんなで持ち寄った小さなタッパーやおむすび用のハート型の容器を用いるなど、いろいろなもので試してみた(写真4)。

私たちは、こうしてできあがった試作品に「海藻石鹸」という名前をつけ(写真5)、町内婦人部の方々に使用していただいて、使いごち、泡立ち、形、香りなどについてのアンケートをお願いした。その結果は、「洗浄力が強い」、「泡がきめ細かい」など、予想していた以上の良い評価であり、それならばもっとよいものを作ってたくさんの人に使ってほしいと思うようになった。

その翌年の平成11年8月から私たちはせっけんの改良に取り組み始め、コンブパウダーの割合を調整したり、オイルの量を変えてみたり、またまた試行錯誤を重ねた。美白効果がある真珠パウダー入りのものも作ってみたが、これはザラザラして肌触りが悪く、失敗に終わった。

私たちはこのようなことを繰り返して、新たなせっけんを作った。そして、前回同様町内婦人部の方々のほかに、特産品販売を行っている町営の販売センターにも協力していただき、全国のお得意さまにも試作品を送付して再びアンケート調査を実施した。その結果、「アトピー性皮膚炎でも安心して使える」という意見や、「いつから販売するの」という問い合わせが寄せられた。販売センターからも「商品が完成すればこちらで販売してもいいですよ」と言っていた。たくさんの人に喜んでいただける、そのうえ町のPRにもつながるかもしれないということがとても励みになり、私たちは商品化に向けた取り組みを始めた。

② 商品化から販売まで

商品化して販売するまでには、課題が山積みであった。

まず、石けんの製造・販売には製造許可が必要であるということ、そして、適正な値段にするために良い原料を安く仕入れなければならないということである。これらのことは私たちだけでは解決できないことだとわかり、南茅部町役場に相談することにした。役場では、私たちの気持ちを考えてくれ、製造許可を取って下さったほか、製造場所として町営のこんぶ加工センターの一部を指定、提供して下さった。また、原料の仕入先についてもインターネットで探したり、電話を何回もかけて調べたりして下さった。

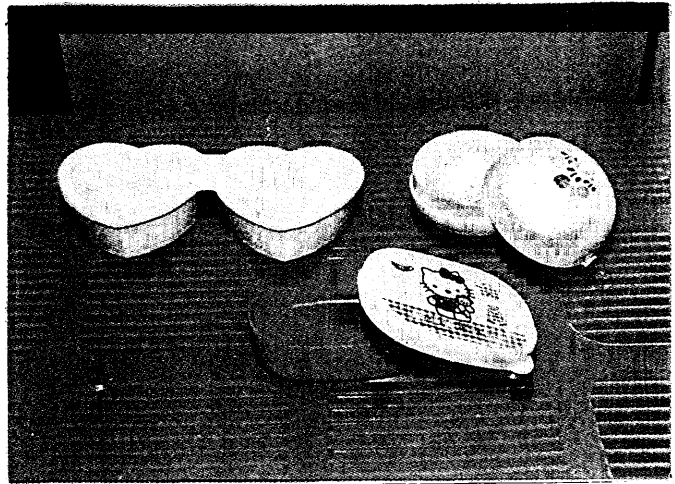


写真4 試作に使用した容器



写真5 試作品「海藻石鹸」

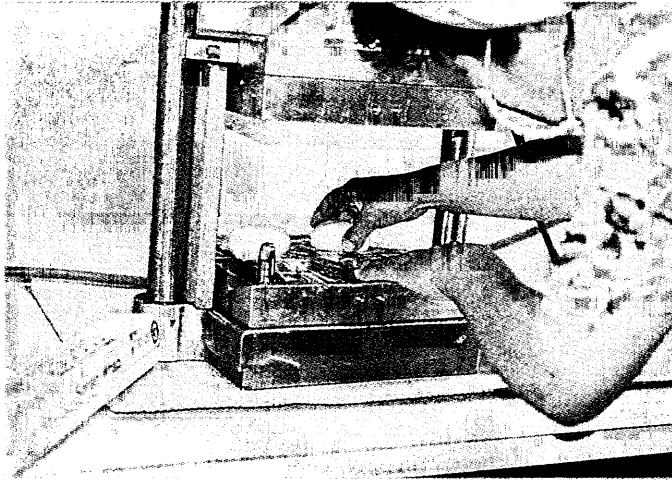


写真6 プレス機で型を取る

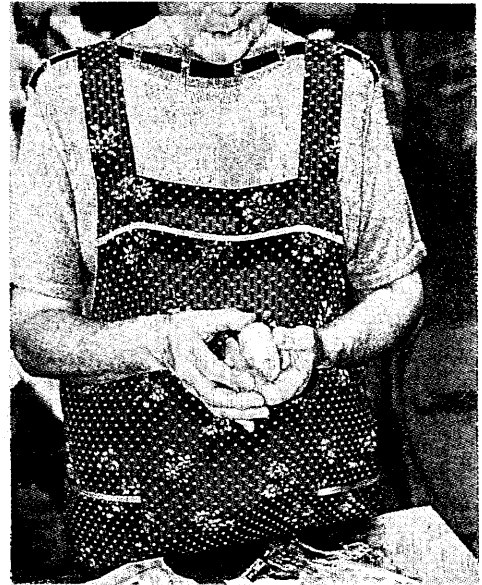


写真7 整形

そして、もう一つの大きな問題は石けんの形状を統一することであった。アンケート調査では、楕円形のせっけんがよいという意見をたくさんいただいたが、プラスチックの容器を使ったり、手で丸めたりしたのではどうしてもきれいな形にすることができなかった。そこでプレス機を使って形を整えることを考えた。しかし、プレス機は一台 55 万円もするので、私たちにはとても購入することができない高価なものである。私たちはなんとか商品化までこぎつけたいということを家族に相談した。すると、「せっかくここまでやってきたんだから思い切ってやってみれ」と言って、お金の工面をしてくれた。また、この取り組みが役場に認められ、助成をいただくこともできた。

こうして、せっけんは丸みを帯びたきれいな楕円形に仕上がるようになった。そして最後に形を整えて、一日一回裏返し、一週間程乾燥させた後で袋づめをすれば完成である（写真6~9）。

商品名はマコンブの学名「ラミナリア ジャポニカ (*Laminaria japonica*)」にちなんで、「らみーな」に決

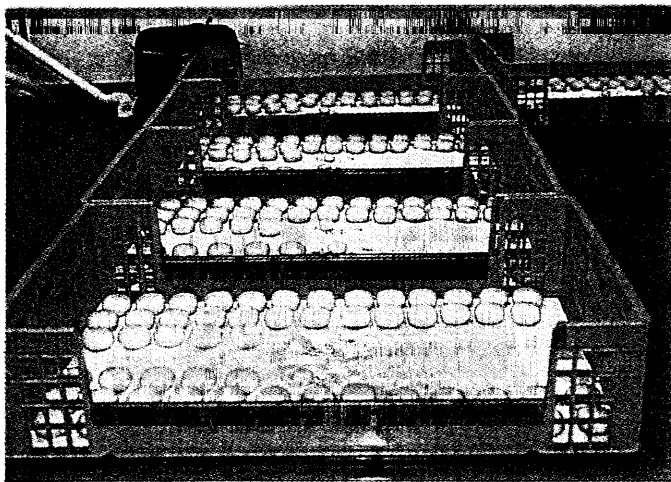


写真8 約1週間乾燥させる



写真9 袋づめ

定し、私たち5人の集まりも「らみーな手作り石けん倶楽部」となった。

平成13年7月、発案から約3年をかけて完成した「らみーな」は、1個75g、600円で販売センターの売店や通信販売などで取り扱っている(写真10)。



写真10 海藻パウダー(昆布)入洗顔石鹸
「らみーな」

③ 現在の取り組み

私たちは1ヶ月に2回、午後1時～6時頃まで加工センターでせっけん作りを行っている。みんなで町の将来のこと、家庭のこと、せっけん作りのこれからの課題など、いろ

ろな話をしながら楽しい時間を過ごしている。作業が延びると、役場の方が戸締りのために一緒に残って私たちの手伝いをして下さる。

こうして私たちは多くの人々の協力を得ながら、1ヶ月に約600個の「らみーな」を作り、買ってもらっている。

6 波及効果

私たちが「らみーな」を作ることは些細なことかも知れないが、きっとこのせっけんを使って下さった方々には私たちの町のこと、そして南茅部でとれるマコンブのことを知ってもらえるのではないかと思います。そして家族や友人にも話してくれているのではないかと思います。私たちはこの町を一人でも多くの人に知っていただくためのお手伝いができるのではないかと感じている。

7月～11月頃は昆布の水揚げ、乾燥、製品作り、出荷など、家の仕事が忙しい時期で、そのような時でもせっけんづくりの時間を作ってくれた家族には本当に感謝している。「また行くのか」と言いながらも、時間が近づくと「時間だべ、はやぐいけ」と言って気を遣ってくれた。忙しいさなかに加工センターまで車で送ってくれたこともあった。

私たちは、せっけん作りの活動を通して町の方々の温かさを実感するとともに、部員みんなの団結が生まれ、家族の絆もより深まったと感じている。

7 問題点と今後の計画

原料の状態はその日の天候や湿度などによって微妙に変化するため、作り方が同じでも出来上がりにバラツキがでることがある。これからは工程を見直すなどし、作業の効率化をはかるとともに、良質で同じ形の製品を作っていきたい。また、敏感な肌の手入りに悩んでいる方々にも安心して使用していただけるように、更なる工夫と研究を重ねながら、あくまで天然素材を使用することにこだわっていきたい。

私たちは、手作りせっけん「らみーな」をこれからも作り続けていきたいと思っている。